

2019 年度 伊賀市外国人住民アンケート調査報告書

■はじめに

2019 年 12 月 1 日現在、伊賀市の人口は 91,226 人であるが、そのうち外国人住民は 5,715 人であり、総人口の 6.26%を占めている。

1990 年の改正出入国管理及び難民認定法の施行に伴い、日系南米人労働者が「デカセギ」として多く来日した。

また、1993 年からは技能実習生制度が創設され、アジア圏出身の外国人住民も増加した。技能実習生は3年を上限としての在留資格であったが、2016 年11月からは更に2年延長することが可能となった。2019 年 4 月 1 日から企業等の深刻な人手不足を解消するため一定の専門性・技能を有し即戦力となる外国人を受け入れるための制度が創設され、新たな在留資格「特定技能」が設けられた。

日本で外貨を稼ぎ、目標を達成して帰国する者が多かったが、近年は家族を呼び寄せ、子どもを産み育て永住、定住化する外国人が増え、2世代、3世代の家族で日本に居住している外国人世帯も増えている。また市内の小中学校における外国人児童生徒数も増加しており 5.28%に上昇している。

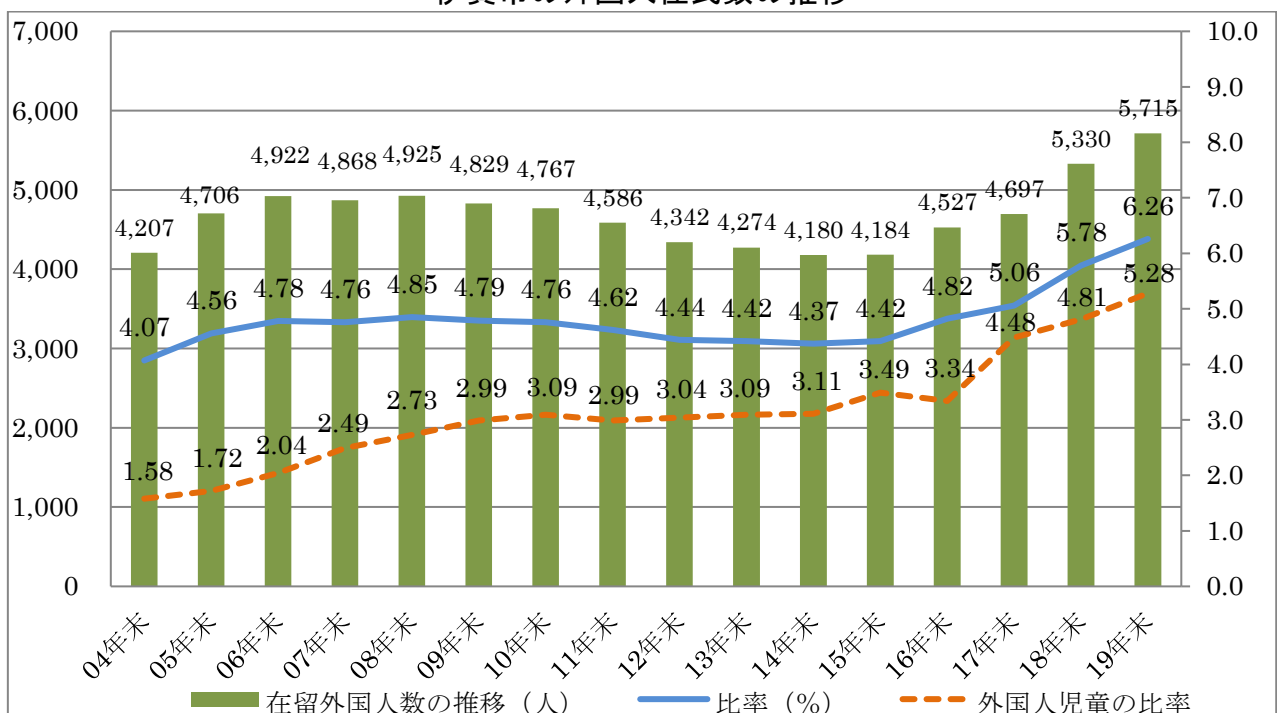
2008 年のリーマンショックの影響により一時外国人住民の数が減少したが景気の回復とともに技能実習生を主とした増加に転じた。日本人を含めた総人口は年々減少しているが外国人住民の数が増加しているため、比率も過去最高の数値を示している。

一方、国籍別構成に変化が現れてきており、ベトナムが中国を上回りブラジルに次いで多く、フィリピンやインドネシア等のアジア諸国からの外国人住民の割合が増加傾向にある。

出身国も43カ国と多様な文化をもつ外国人がいることから、ますます日本人住民と外国人住民がともに暮らしやすい、多文化共生のまちづくりを進めていくことが必要となっている。

そのため、2年ごとに外国人住民の生活や就労の実態をアンケート調査によって把握し、調査結果を踏まえて、当市の多文化共生施策の推進に繋げていく。

伊賀市の外国人住民数の推移



■調査期間 2020 年 3 月 1 日～4 月 10 日

■対象者 2020 年 2 月 1 日現在、伊賀市に在住する外国人住民(18 歳以上の人を対象)

■調査方法 ①外国語版情報誌配布先企業へ郵送で調査票の配布・回収

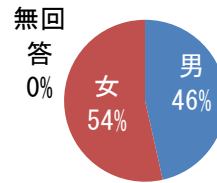
②市民生活課窓口で調査票の配布・回収

■回答数 114 人

調査結果及び分析

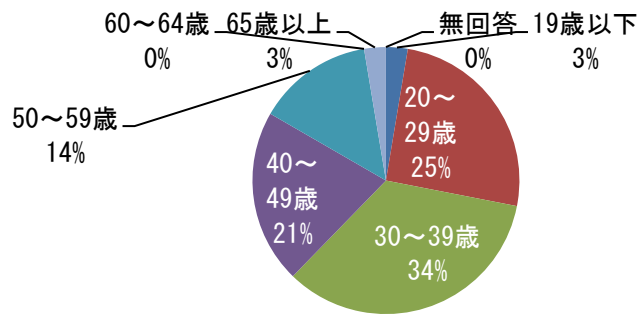
【1. あなた自身のことについて】

性別	回答数	割合%
男	53	46.5%
女	61	53.5%
無回答	0	0.0%
計	114	100.0%



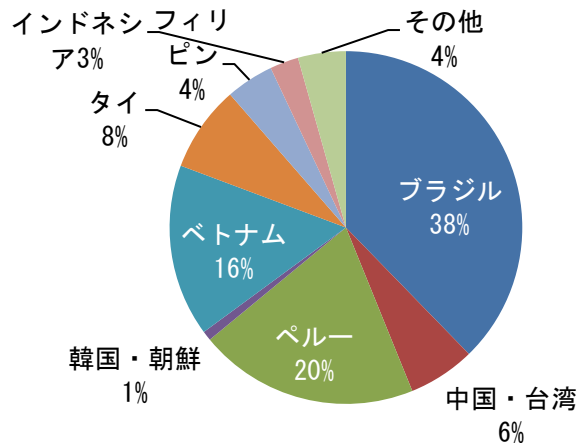
・「女性」が 53.5%、「男性」が 46.5%。

年齢	回答数	割合%
19 歳以下	3	2.6%
20～29 歳	29	25.4%
30～39 歳	39	34.2%
40～49 歳	24	21.1%
50～59 歳	16	14.0%
60～64 歳	0	0.0%
65 歳以上	3	2.6%
無回答	0	0.0%
計	114	100.0%



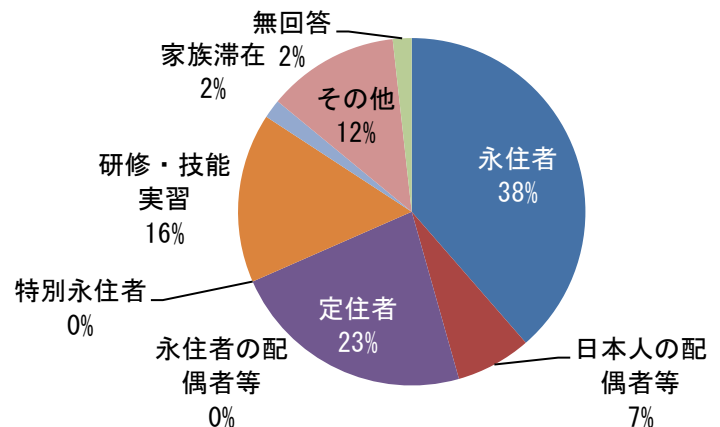
・「30～39 歳」が 34.2%で最も多く、ついで「20～29 歳」(25.4%)、「40～49 歳」が(21.1%)と続く。

国籍	回答数	割合%
ブラジル	43	37.7%
中国・台湾	7	6.1%
ペルー	23	20.2%
韓国・朝鮮	1	0.9%
ベトナム	18	15.8%
タイ	9	7.9%
フィリピン	5	4.4%
インドネシア	3	2.6%
ボリビア	0	0.0%
アルゼンチン	0	0.0%
その他	5	4.4%
計	114	100.0%



・「ブラジル」が 37.7%と最も多く、次いで「ペルー」(20.2%)、「ベトナム」(15.8%)、「タイ」(7.9%)と続く。

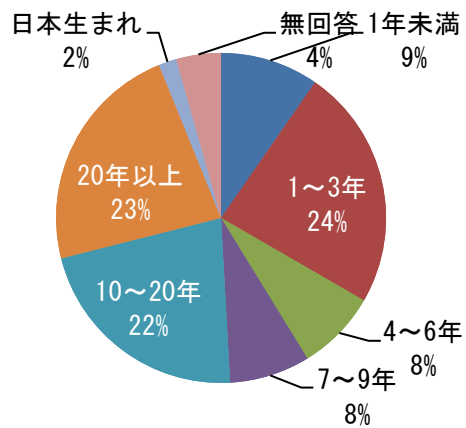
在留資格	回答数	割合%
永住者	44	38.6%
日本人の配偶者等	8	7.0%
永住者の配偶者等	0	0.0%
定住者	26	22.8%
特別永住者	0	0.0%
研修・技能実習	18	15.8%
家族滞在	2	1.8%
その他	14	12.3%
無回答	2	1.8%
計	114	100.0%



・「永住者」(38.6%)が最も多い。

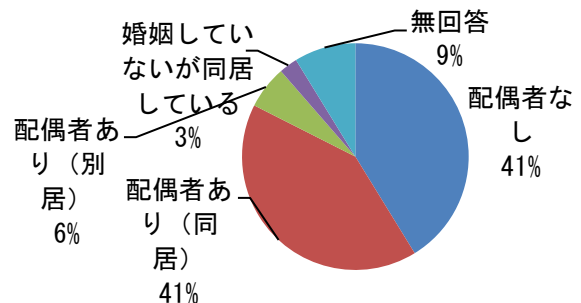
・就労制限がない「特別永住者・永住者・定住者・日本人の配偶者等・永住者の配偶者等」の回答率は、68.4%で「研修・技能実習」からの回答は 15.8%。

日本での滞在年数 (通算)	回答数	割合%
1年未満	11	9.6%
1～3年	27	23.7%
4～6年	9	7.9%
7～9年	9	7.9%
10～20年	25	21.9%
20年以上	26	22.8%
日本生まれ	2	1.8%
無回答	5	4.4%
計	114	100.0%



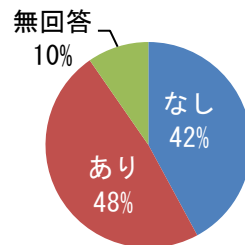
・「1～3年」(23.7%)が最も多く、続いて「20年以上」(22.8%)、「10～20年」(21.9%)、「1年未満」が(9.6%)。「1～3年」は技能実習生が多く含まれており、その他の在留資格を持つ外国人は滞在期間が比較的長い年数となっている。

配偶者の有無	回答数	割合%
配偶者なし	47	41.2%
配偶者あり(同居)	47	41.2%
配偶者あり(別居)	7	6.1%
婚姻していないが同居している	3	2.6%
無回答	10	8.8%
計	114	100.0%



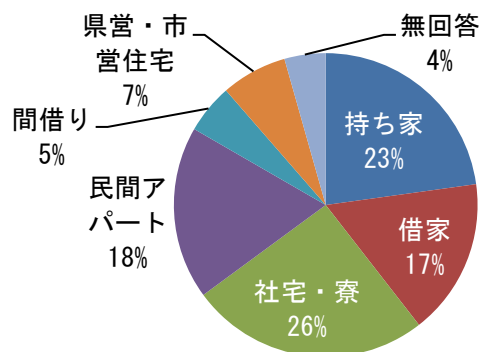
- ・「配偶者あり」が41.2%
- ・同居や配偶者があると答えた人は49.9%おり、単身世帯より上回っているといえる。

子どもの有無	回答数	割合%
なし	48	42.1%
あり	55	48.2%
無回答	11	9.6%
計	114	100.0%



・今回の調査では、配偶者なしと子どもなしの数がほぼ同数であり、子育て家庭による回答を多く得られたといえる。

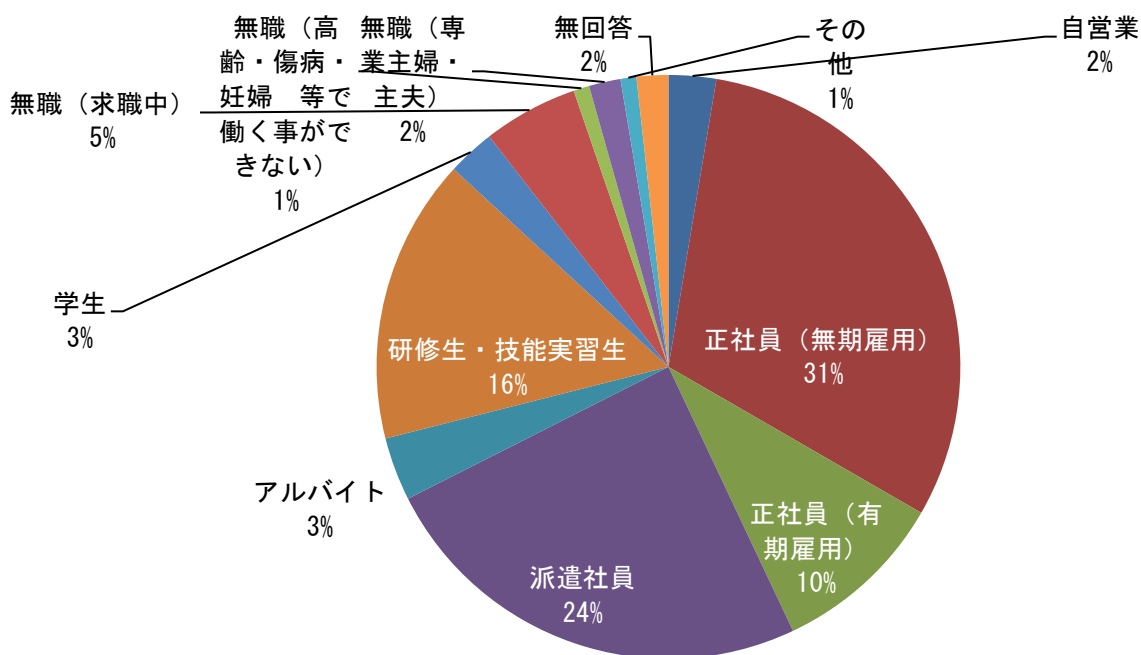
現在の住居	回答数	割合%
持ち家	26	22.8%
借家	19	16.7%
社宅・寮	29	25.4%
民間アパート	21	18.4%
間借り	6	5.3%
県営・市営住宅	8	7.0%
無回答	5	4.4%
計	114	100.0%



・「持ち家」率が22.8%で「借家」が16.7%であることから、一軒家に住んでいる割合も高く、地域の一員として居住している。

職業	回答数	割合%
自営業	3	2.6%
正社員(無期雇用)	35	30.7%
正社員(有期雇用)	11	9.6%
派遣社員	28	24.6%
アルバイト	4	3.5%
研修生・技能実習生	18	15.8%
学生	3	2.6%
無職(求職中)	6	5.3%
無職(高齢・傷病・妊婦等)	1	0.9%
無職(専業主婦・主夫)	2	1.8%
その他	1	0.9%
無回答	2	1.8%
計	114	100.0%

・「研修生・技能実習生」(15.8%)を除き、「派遣社員」(24.6%)、「正社員(有期雇用)」(9.6%)、「正社員(無期雇用)」(30.7%)が多くを占め、不安定な雇用条件のもと働いていることがわかる。



【2. 伊賀市のことについて】

住み始めた一番の理由(1つだけ)	回答数	割合%
仕事があったから	55	48.2%
家族・友人がいたから	29	25.4%
友人・知人に紹介されたから	8	7.0%
家賃が安いから	0	0.0%
交通や生活が便利だから	4	3.5%
自分では決めていない	17	14.9%
無回答	1	0.9%
計	114	100.0%

・「仕事があったから」(48.2%)で最も多く、次いで「家族・友人がいたから」(25.4%)となっている。当市には工場が多いため、働く場が多いため仕事を求めて、転入してくる外国人住民が多い。また、仕事だけでなく親戚や友達が多く居住していることも住み始める理由として比率が高い。外国人が集住する要件が伊賀市にある。親族が集って住んでいるのも特徴となっている。

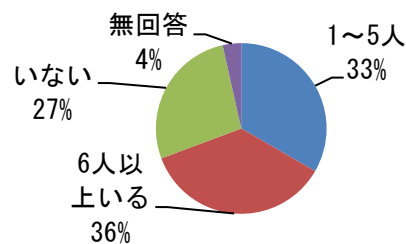
伊賀市に住んで良いと感じること(3つまで)	回答数	割合%
自然(山、水、食べ物)が豊富	48	23.6%
家賃・物価が安い	14	6.9%
交通(仕事・買い物)が便利	29	14.3%
仕事のチャンスが多い	19	9.4%
子育て支援・子どもの教育が良い	15	7.4%
多文化共生施策(通訳・翻訳・相談・情報提供・イベント)が良い	17	8.4%
文化活動やレジャーの機会が多い	2	1.0%
病気の時(病院)の対処が良い	5	2.5%
友だちや周囲の人が親切	28	13.8%
特にない	18	8.9%
その他	8	3.9%
計	203	100.0%

- ・前回調査と同様、「自然(山、水、食べ物)が豊富」が最も多かった。
- ・「交通(仕事・買い物)が便利」(14.3%)、「友だちや周囲の人が親切」(13.8%)が10%を超えている。

伊賀市に住んで、困ることや嫌なこと(3つまで)	回答数	割合%
自然(山、水、食べ物)が悪い	7	5.1%
家賃・物価が高い	32	23.2%
交通(仕事・買い物)が不便	15	10.9%
仕事が見つからない	3	2.2%
子育て支援・子どもの教育が良くない	1	0.7%
多文化共生施策が良くない	3	2.2%
文化活動やレジャーの機会が少ない	11	8.0%
病気の時(病院)の対処が良くない	8	5.8%
友だちや周囲の人が冷たい	3	2.2%
特にない	44	31.9%
その他	11	8.0%
計	138	100.0%

【3. 地域とのつながりについて】

日本人の友だちはいますか？	回答数	割合%
1~5人	38	33.3%
6人以上いる	41	36.0%
いない	31	27.2%
無回答	4	3.5%
計	114	100.0%

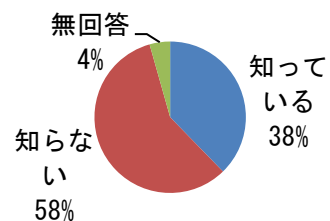


- ・「6人以上いる」(36.0%)が最も多く、69.3%の外国人住民が日本人と交流していることが分かる。

近くに住む日本人とどのようなつき合いがありますか？	回答数	割合%
あいさつをする程度	65	57.0%
日常生活の話(世間話)をする	17	14.9%
困ったときに助け合っている	6	5.3%
家族同様に親しく付き合っている	3	2.6%
付き合いがない	21	18.4%
その他	0	0.0%
無回答	2	1.8%
計	114	100.0%

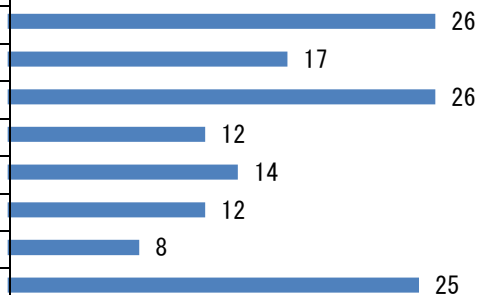
- ・半数以上が「あいさつをする程度」(57.0%)にとどまっている。
- ・「付き合いがない」は、18.4%となっている。

地域の自治会を知っていますか？	回答数	割合%
知っている	43	37.7%
知らない	66	57.9%
無回答	5	4.4%
計	114	100.0%



・持ち家があると回答した人が 26 人 (22.8%) であり自治会を「知っている」が 21 人 (80.8%) となっているため、家を持つようになって自治会の存在を知るようになることが分かる。

地域で、どのような交流をしたいですか？(複数可)	回答数	割合%
となり近所の人と親しくしたい	26	18.6%
自分たちの文化を紹介したい	17	12.1%
日本の文化や習慣などを教えてほしい	26	18.6%
ボランティア活動に参加したい	12	8.6%
祭りなど地域の行事に参加したい	14	10.0%
趣味のサークルに参加したい	12	8.6%
交流はしたくない	8	5.7%
その他	25	17.9%
計	140	100.0%



・「となり近所の人と親しくしたい」(18.6%)、「日本の文化や習慣などを教えてほしい」(18.6%)に加えて「ボランティア活動に参加したい」(8.6%)といった日本文化や社会に関心を持っている外国人住民が多くいることがわかった。
 ・「地域交流はしたくない」といった意見も 5.7%あった。

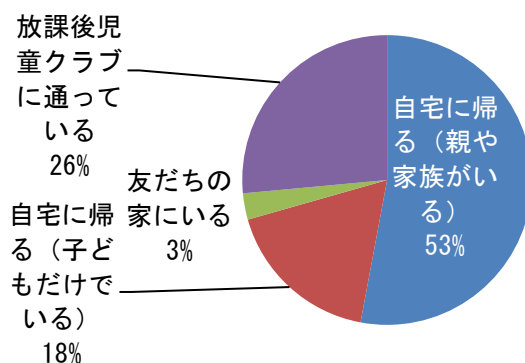
【4. 子育てのことについて】

※子どもがいる(いた)人のみ回答

日本の保育園・幼稚園・小学校・中学校に通っています(通っていました)か？	回答数	割合%
通っている (通っていた)	43	87.8%
通っていない (通っていません)	6	12.2%
ブラジル人学校・民族学校などに通っている (通っていた)	0	0.0%
計	49	100.0%

・「通っている(通っていた)」が 87.8%であった。
 ・通っていないと回答したものについては、保育所に入所できなかった場合と家庭内保育ができる環境がある場合とがある。

放課後は何をしていますか？	回答数	割合%
自宅に帰る(帰った) (親や家族がいる)	18	52.9%
自宅に帰る(帰った) (子どもだけにいる)	6	17.6%
友だちの家にいる(いた)	1	2.9%
放課後児童クラブに通っている (通っていた)	9	26.5%
計	34	100.0%



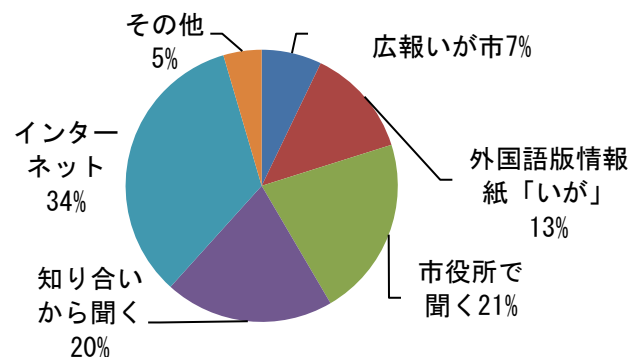
・70.5%が自宅へ帰るが、このうち 17.6%が子どもだけの家でのいる(いた)と回答している。

子どものことで一番心配なことはあります(ありました)か？	回答数	割合%
学力のこと	12	15.6%
進路(進学・就職)のこと	16	20.8%
友人関係のこと	14	18.2%
子どもと先生とのコミュニケーションのこと	9	11.7%
親と先生とのコミュニケーションのこと	12	15.6%
親子のコミュニケーションのこと	3	3.9%
心配なことはない(なかった)	7	9.1%
その他	4	5.2%
計	77	100.0%

- ・保護者の心配ごとは、学力・進路で 36.4%となった。
- ・「心配なことはない(なかった)」と回答したものは、9.1%であった。

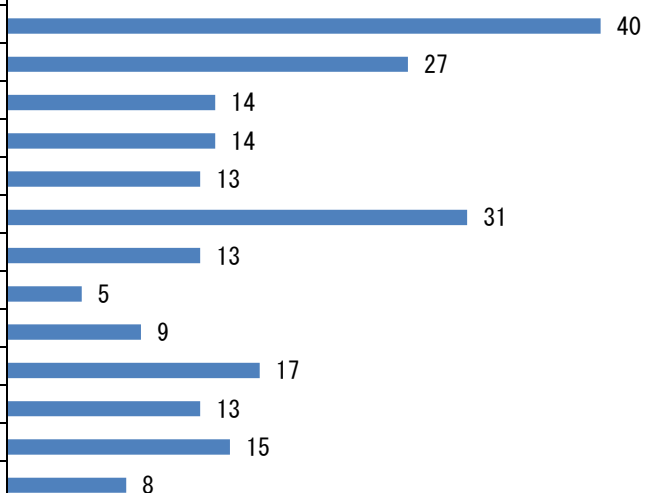
【5. 情報の入手について】

生活にかかわる情報をいつもどこから入手していますか？	回答数	割合%
広報いが市	11	7.1%
外国語版情報紙「いが」	20	13.0%
市役所で聞く	33	21.4%
知り合いから聞く	31	20.1%
インターネット	52	33.8%
その他	7	4.5%
計	154	100.0%



- ・情報収集の方法としては、やはり市役所や知人からといった、耳からの情報に頼る傾向が多い。(41.5%)
- 次いで多いのが、「インターネット」(33.8%)。スマートフォンの普及により多言語情報が様々なサイトから収集可能となった。

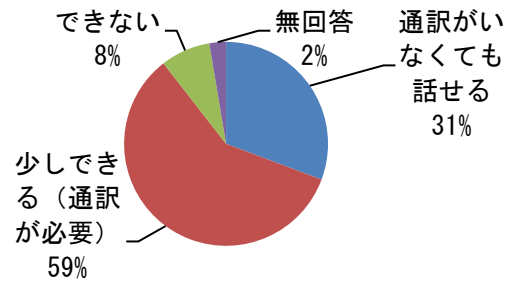
どのような情報がほしいですか？	回答数	割合%
災害など緊急時の対応の情報	40	18.3%
生活のルール(法律)の情報	27	12.3%
行政サービスの情報	14	6.4%
相談窓口の情報	14	6.4%
地域・日本人との交流の情報	13	5.9%
日本語学習の情報	31	14.2%
仕事・就職の情報	13	5.9%
住宅の情報	5	2.3%
在留資格(入国管理局)の情報	9	4.1%
保険・医療・福祉の情報	17	7.8%
子育て・教育の情報	13	5.9%
イベント・レジャーの情報	15	6.8%
その他	8	3.7%
計	219	100.0%



- ・上記の行政に関する情報は、外国語版情報紙に随時掲載しているので周知が必要と考えられる。
- ・インターネットによる情報提供は、市ホームページが多言語対応していることや多文化共生センターのホームページ、facebook で多言語発信していることをさらに周知していく。三重県の多言語情報サイト mieinfo などを見ている人も多い。

【6. 日本語能力について】

日本語を話せますか？	回答数	割合%
通訳がいなくても話せる	35	30.7%
少しできる(通訳が必要)	67	58.8%
できない	9	7.9%
無回答	3	2.6%
計	114	100.0%



- ・アンケート調査では、「できない」が7.9%であった。
- ・長期で日本に滞在している人や日本の学校に通った経験のある外国人住民も多くなってきており、全く話せない人の割合は低い。

日本語を読んだり書いたりできますか？	回答数	割合%
翻訳がなくてもできる	18	15.8%
少しできる(ひらがなができる)	68	59.6%
できない	17	14.9%
無回答	11	9.6%
計	114	100.0%

- ・日本語を話せない人の割合(7.9%)よりも読み書きができない割合(14.9%)の方が高く、文字習得が難しいことが分かる。

日本語を勉強したいですか？	回答数	割合%
いま勉強している	33	28.9%
すぐにでも勉強したい	9	7.9%
機会があれば勉強したい	61	53.5%
考えていない	7	6.1%
無回答	4	3.5%
計	114	100.0%

- ・「機会があれば勉強したい」が、53.5%と約半数を占めている。実習生、研修生は入国前後に日本語学習の機会があるが、それ以外で入国した外国人は日本語学習よりも就労を優先せざるを得ないため、学習意欲はあるもののなかなか勉強できない現状であることが分かる。

【7. 人権問題のことについて】

外国人であることで差別を受けたと感じたことがありますか？	回答数	割合%
ある	36	31.6%
ない	62	54.4%
分からない	7	6.1%
無回答	9	7.9%
計	114	100.0%

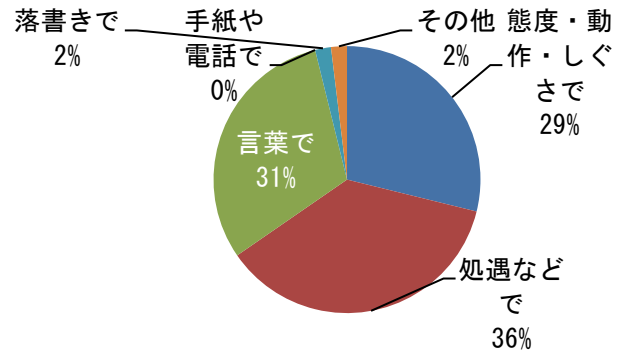
※「ある」と答えた方への質問

いつ、どこで、どのような差別を受けたと感じましたか？(1番忘れられないもの)

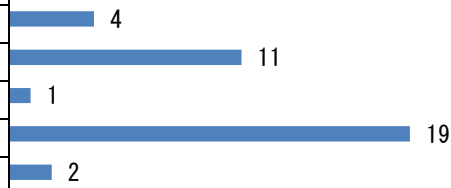
いつ	回答数	割合%
1～3年以内	15	41.7%
4～6年以内	4	11.1%
7～9年以内	7	19.4%
10年以上前	8	22.2%
無回答	2	5.6%
計	36	100.0%

どこで	回答数	割合%
学校	2	4.8%
会社	17	40.5%
行政機関	3	7.1%
お店	13	31.0%
地域(近所)	2	4.8%
その他	2	4.8%
無回答	3	7.1%
計	42	100.0%

どのような	回答数	割合%
態度・動作・しぐさで	15	28.8%
処遇などで	19	36.5%
言葉で	16	30.8%
手紙や電話で	0	0.0%
落書きで	1	1.9%
その他	1	1.9%
計	52	100.0%



その時、誰かに相談しましたか	回答数	割合%
家族や親戚に相談した	4	10.8%
友人や知人に相談した	11	29.7%
市役所に相談した	1	2.7%
誰にも相談しなかった	19	51.4%
その他	2	5.4%
計	37	100%



・外国人を理由とした差別は、31.6%の人が経験しており、会社や地域、店や学校など生活に関係した場面で多く見られる。アンケート回答者のうち通訳が必要な人の割合が 66.7%おり、差別発言より態度や動作、しぐさによる差別体験が多い。また、職場などでの処遇の差別も存在することがわかる。

・相談については、窓口の周知や日本語の問題もあり、「誰にも相談しなかった」と回答した人が半数以上いた。

【8. 将来の予定について】

帰国を考えていますか？	回答数	割合%
3年以内に帰国する	14	12.3%
勉強や仕事などの区切りがいたら帰国したい(帰国する)	13	11.4%
日本に住み続けたい(住み続ける)	71	62.3%
日本国籍を取りたい	12	10.5%
無回答	4	3.5%
計	114	100.0%

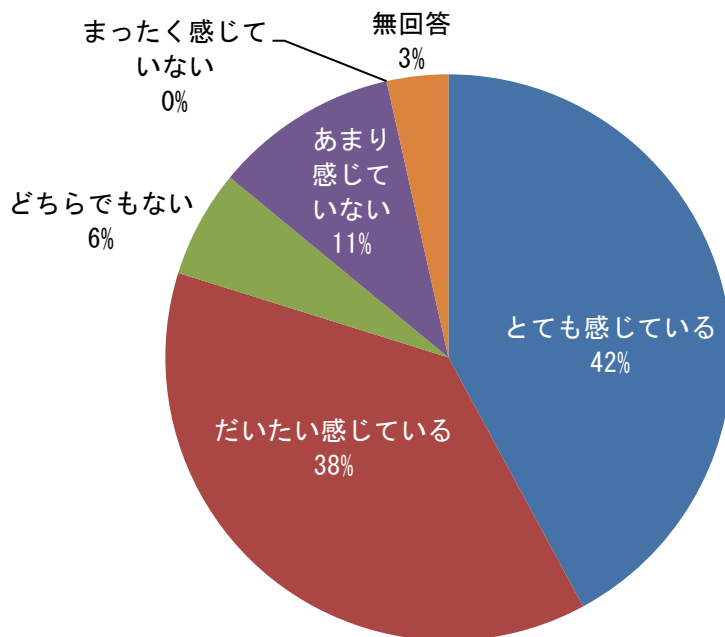
・期限の定めがない又は更新可能な在留資格を持っている人は、今後も日本に住み続けたいと考えている。

・日本での生活を継続することを想定して居住している人は回答者の 72.8%であった。

【9. 生活の満足度について】

伊賀市に住んで良かったと感じていますか？	回答数	割合%
とても感じている	48	42.1%
だいたい感じている	43	37.7%
どちらでもない	7	6.1%
あまり感じている	12	10.5%
まったく感じている	0	0.0%
無回答	4	3.5%
計	114	100.0%

伊賀市に住んでよかったと感じていますか



・住んでよかったと感じているものは、「とても感じている」と「だいたい感じている」を合わせると79.8%となった。前回(2017年度)調査より、0.2%減った。

	2015年度調査	2017年度調査	2019年度調査
回答者数	116人	131人	114人
【満足度】			
とても感じている	32.8%	35.9%	42.1%
だいたい感じている	41.4%	44.3%	37.7%
どちらでもない	18.1%	9.9%	6.1%
あまり感じていない	4.3%	3.1%	10.5%
まったく感じていない	2.6%	0.0%	0.0%
無回答	0.9%	6.9%	3.5%

【自由意見】

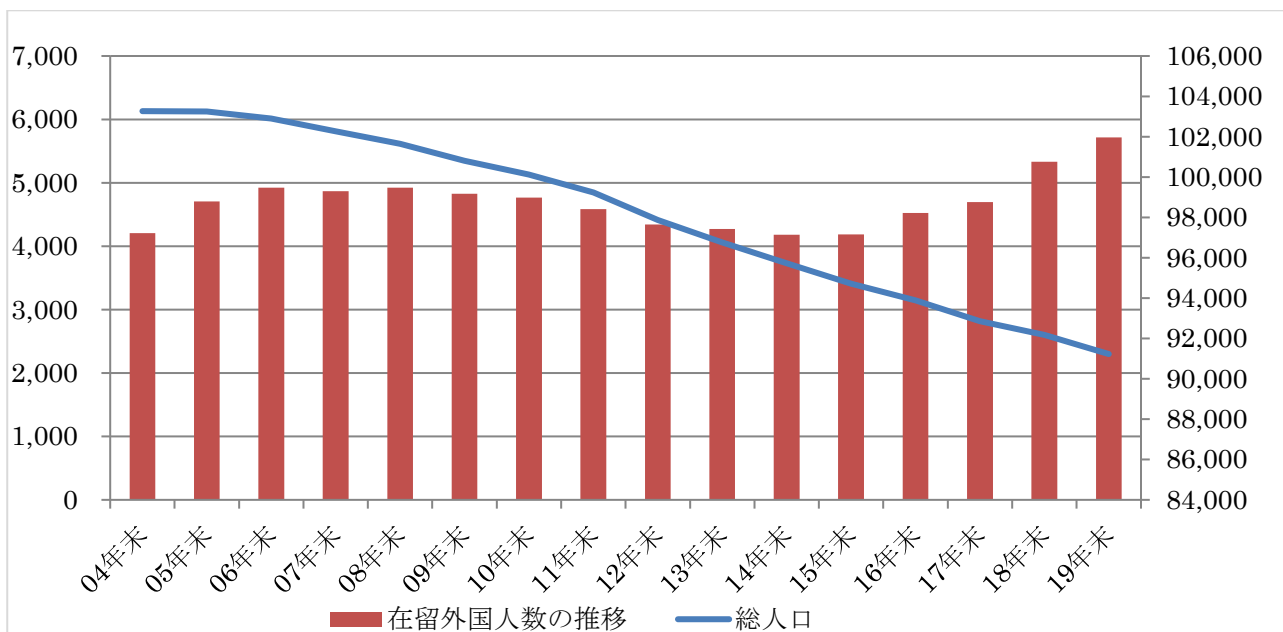
- ◇ 窓口では丁寧な接客をしてほしい。
- ◇ 伊賀市はとても美しくて平和で住みやすいです。人々は親切で比較的良い品揃えがあります。
- ◇ 情報を入手するためいろいろな言語対応のアプリがあればいいな。
- ◇ 緊急の時に対応する病院が少ないのでその面ではもう少し対応してほしいです。
- ◇ 道路の清掃、名阪国道の近くにはゴミがたくさんあります。
- ◇ 母子家庭の方にもう少し支援がほしい。
- ◇ 通訳がいる病院が増えるといいな。
- ◇ 外国レストランがほしいです。
- ◇ 名張街道(368号)にいろいろなお店ができてほしい。
- ◇ 猪田地域にスーパーとお店がほしい。
- ◇ 会社とお店がいっぱいほしい。

(資料編)

【人口の推移】

伊賀市が誕生(2004年)して以来、総人口は減少を続けている。

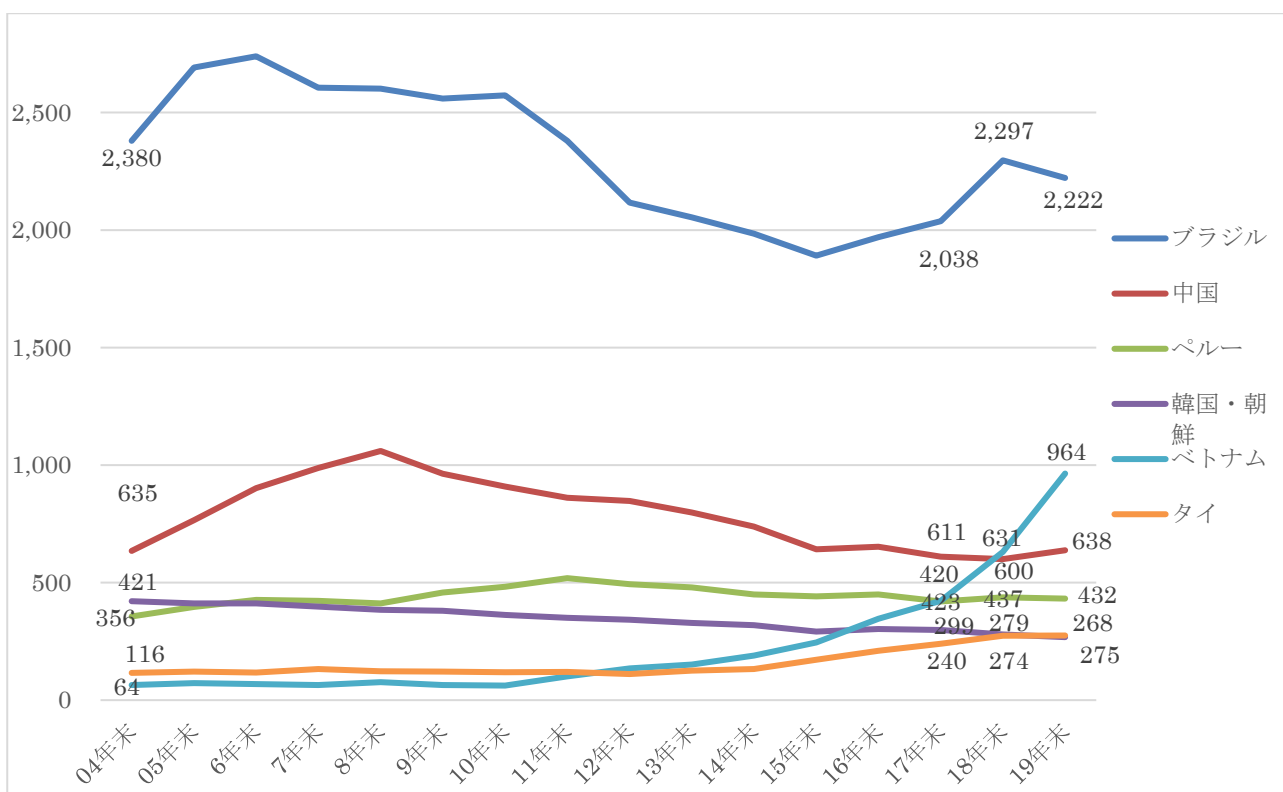
外国人人口は、2009年のリーマンショック以降減少し4,180人まで落ち込んだが、景気回復と共に増え始め2019年(H31)末には5,715人となった。



【国籍別】(12月末調査)

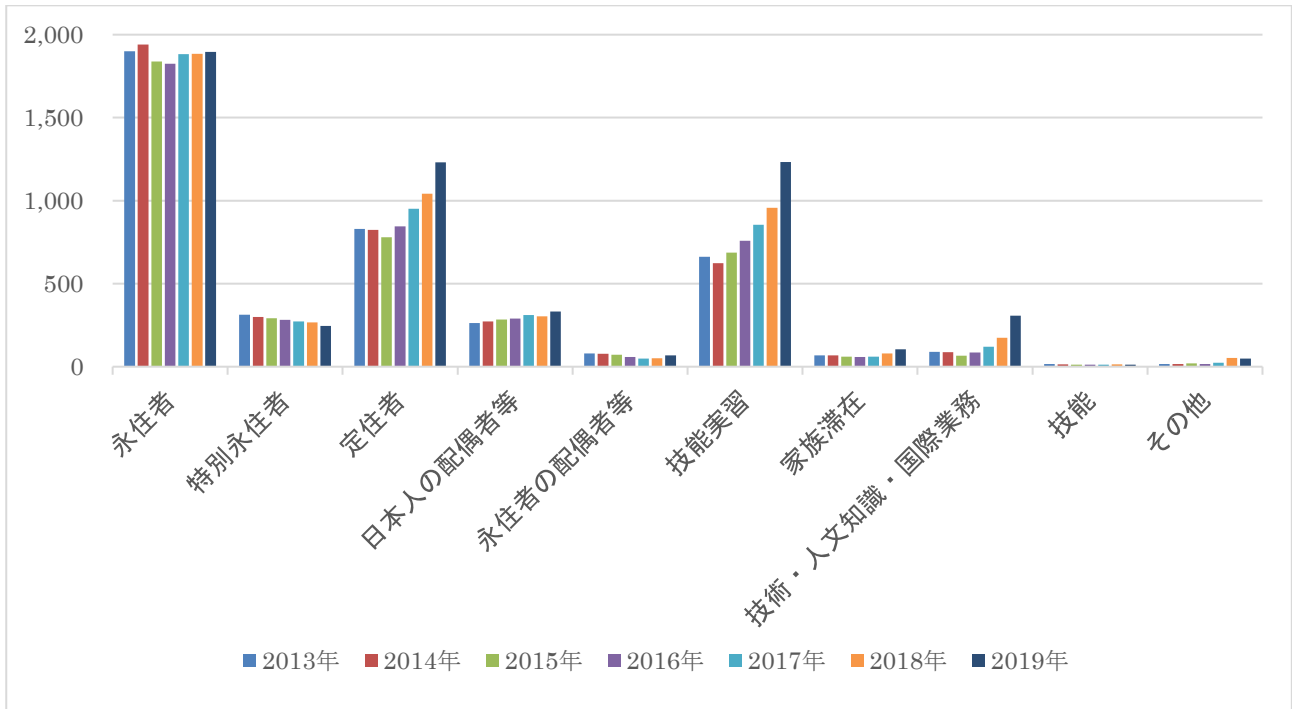
南米出身者が47.3%を占めており、そのうちブラジル国籍が38.9%。

これまで、1位ブラジル、2位中国、3位ベトナム、4位ペルーの順だったが、2019年12月末にはベトナムが2位になった。タイ、フィリピン、インドネシアを含め東南アジア出身者が増加している。



【在留資格別人口の推移】(3月31日調査)

永住者・定住者・技能実習の在留資格者が多いことが分かる。
前年同期比で定住者が189人、技能実習生が274人増えており、新たに就労を目的として転入者が多い。

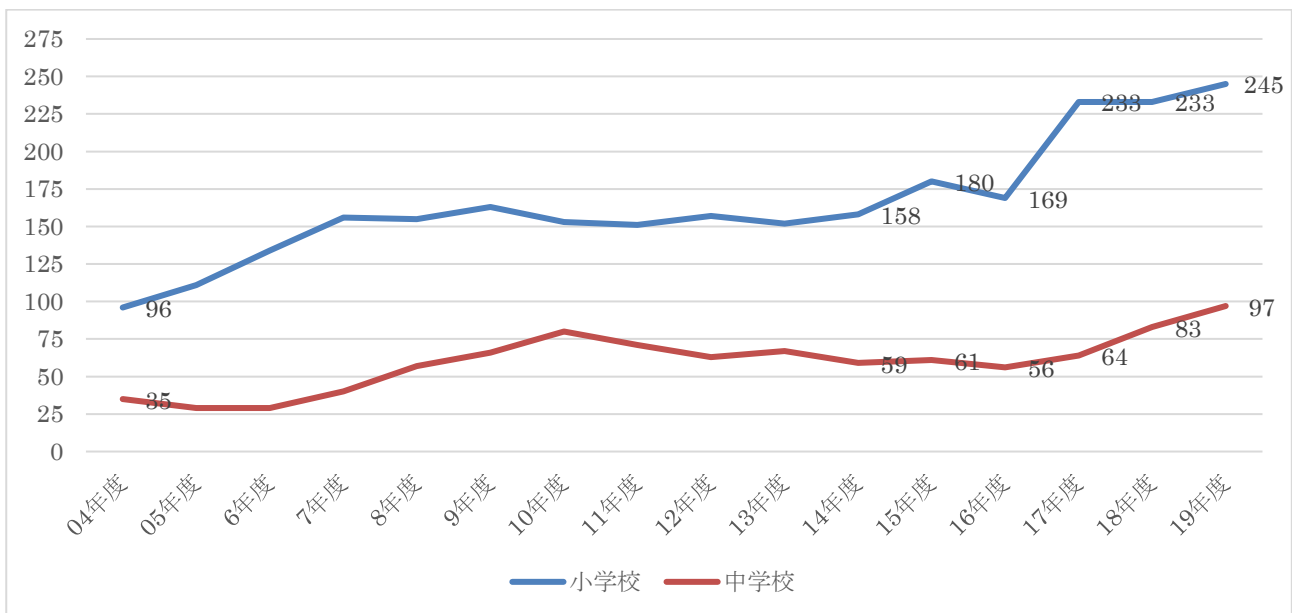


【日本語指導を必要とする児童生徒数の推移】(5月1日調査)

年々小・中学校とも増加している。外国につながる子どもやミックスルーツをもつ子どもが多いが、日本国籍を持つ(片方の親が日本人)子どもでも日本語指導を必要とする児童生徒もいる現状である。

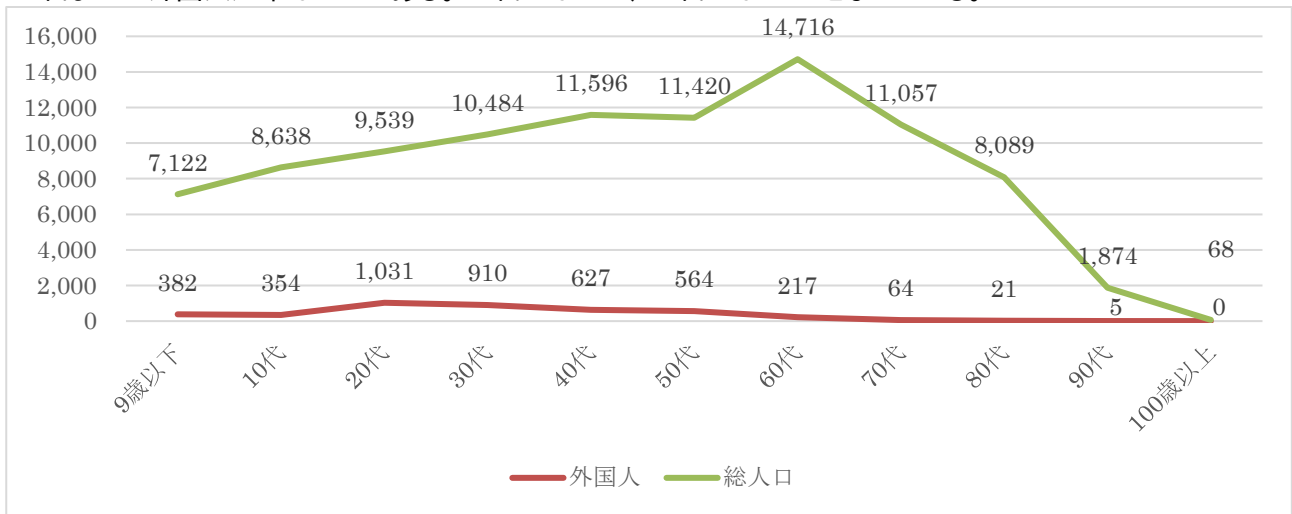
経済的に安定してきた近年、家族の呼び寄せや日本で家族を持つ世帯が増えており近年では東南アジア系の生徒たちが増加傾向にある。

一方、外国籍であっても生まれ育ちが日本のみの子どもで、日本語指導を必要としない児童生徒も増えている。



【年齢別人口】(2019年12月末現在)

日本人の年齢構成が少子高齢化傾向にあるのに対し、外国人住民の約半数が生産人口年齢となっている。10代までの外国人比率は7%である。20代では23%、30代では15%となっている。



【市役所での相談件数】

現在、ポルトガル語・スペイン語・中国語・英語での相談を受けている。相談件数は減少しているが多種多様な相談があり、消費者トラブルや年金問題など相談内容が複雑化している傾向がみられる。1件の相談時間も長時間の拘束が強いられ相談体制の充実がますます必要になっている。

